

# 県立南会津高校を守り育てる会ニュース

2022年  
6月8日発行  
【事務局】  
町片貝字石田  
425  
菅家 新

## まだ間に合う！統廃合の中止！

### 実施は 住民運動の成果

六月十四日(火)午後六時から南郷体育館で「地域懇談会」が開催されることになりました。「育てる会」は、四月三十日付で大沼教育長に「住民との話し合い」を教育長が責任をもって「住民にひらかれた方法」で至急実施する旨の要望書を提出して行きました。また、同時に町長になられた渡部さんにも「住民にひらかれた話し合い」の場を持てるようにご尽力してくださいとお願いの文書を差し上げて行きました。

その結果、馬場同窓会長より六月一日に町当局に「六月十四日に住民懇談会を実施した

### 渡部町長の考えは

知らされました。行政の役職にある人たちを中心にして、住民の参加も募り発言もしていいという「住民にもひらかれた」懇談会形式で実施するようになったそうです。

以上のことを受けて、馬場同窓会長の仲介によって、六月六日(月)に渡部町長と面談することができました。星町教育長と阿久津学校教育課長、馬場同窓会長の同席のもと役場本庁で小一時間の面談になりました。

### これまでの県教委は

この統廃合そのものが、県教委によれば「夢が持てる希望あるもの」であると何度も何度も県教委の説明を聞いてきました。しかしながら、県教委のその説明には「うそ」や「ごまかし」がありました。問題解決のための県教委の姿勢には誠実さもなく、住民の質問にも「まともに答える」姿勢もありませんでした。

### 県教委の甘い策略

「だめならより良い方法で統廃合」をさせたほうがいいということに成らざるを得ないことは理解できます。このような「混乱」は子ども(受検生)のために早くなくしてほしいとの声も納得できません。でも、でもです、この考えかたは県教委の望むことであり策略なのです。このようにして「存続させたい」との住民のまとまりを崩していくという「保護者の弱みつけ込んだ」県教委のやり方なのです。「通学費用の補助を出す」と保護者説明会でありましたが、その補助金は県が出すのか町が出すのかさえも公言できずに県教委はいるのかかわらず、県庁内では補助金を出すのは「当面だけだよ」と言っていました。どう考えても継続的な補助ではありません。入学時だけのものだと考えてもお

い「旨の話があったことを

があることも知らされました。「町立」についても検討していただいていうのですが、「財政」の関係で難しいということの話もありました。大変有意義な前向きな意見交換ができました。

「施を約束」して閉会したのにもかかわらず、その実施は再三の住民側からの申し出にも関わらず実施されませんでした。

そのような状況の中で、鈴木教育長(当時)は「一定の理解を得た」として二月県議会でも条例を成立させてしまいました。

私たち住民は、このような住民無視のまま成立させた条例を認める訳にはいきません。

かしくないことです。

このような「甘い話」に今飛びつかなくてもいいのではないでしょう。か。「廃校」と引き換えにする事柄ではないと思います。このようなことで「存続」を手放すことはないと思います。本当に必要な「よりよい条件の政策」は「統廃合が決まって」からでも間に合いますから、まだまだ統廃合反対を「あきらめる」必要はありません。

**地域懇談会で望むことは、凍結しかない！**

「条例化」されてしまいましたので「白紙撤回」とか「見直し」とかは難しいでしょう。それならば**可能なことは「凍結」**です。一時凍結させて、南会津高校側に「存続させるための方策」を試行させる機会を与えることです。それでも「存続が難しい」のであれば「凍結を解除」させて統廃合を実施すればいいのです。五年の猶予があれば存続の見通しが出来ます。これまでの南会津高校の特徴「地元の高校」がそのまま残すことが出来れば実現可能です。だから懇談会では**「凍結」をみんなで主張**しましょう。

**今回の懇談会の意義は**

今度の「地域懇談会」を「県教委の説明会」にしてはなりません。県教委の説明はこれまでに終わっているからです。もし「新しい説明」があるならば、それは「新しい政策」であって「今回の統廃合」の理由づけにはなりませんし、その「新しい政策」を出してくること自体「今回の統廃合」には正統な理由がなかったことを示すことになり、今度の懇談会の課題は、

- 一、**住民無視の進め方**（署名や請願書、自治体の各団体での存続の要望などを無視している現状）と、**住民との話し合いの約束も反故して進めている**のだから、「凍結」にして「**住民と話し合い**」をすること、を結論にさせること。
- 二、**地域協働推進校として存続させること。**

① 通うことができないのに、出来ると判断（寮をつくること自体通学ができないことを認めていること）した内容の説明。

② 「地元の高校」（南会津高校の特徴を県教委はどう分析している

のかが問題）ではないと判断した理由の説明。地域協働推進校になるのは①②のどちらかの条件があればいいのですから、「**県教委がつくった改革の方針通り**」に**地域協働推進校として残すこと**の結論を出させることです。

だから、「**存続**」を**県教委に認めさせるのがこの懇談会の唯一の実施意義**になるのです。

この二点に問題を絞って県教委に迫っていくのが、県議会に裏切られてしまった私たち住民にとって、**今となっては「存続」への唯一の方法**になってしまったのです。

これしか残っていないのではなく、この方法がまだ残っていたのです。渡部町長には大沼県教育長の同席を求めていただいたのでそれも実現しますので、県教委の「**存続**」への**姿勢を導き出せる懇談会**になります。**住民側の「存続の願い」**一点でまとまった話し合いになることを切に願っています。

**「より良い条件」よりも「存続」が一番です**

それでも、万が一にも「廃校」を受け入れなければならぬ事態になったときに、「より良い条件」

を持ち出せばいいのではないでしょう。か。「存続」に代わる「より良い条件」は在り得ないと思いますので、「より良い条件」に拘っても、他地区での県教委の姿勢を見ても「**その条件**」には「**将来性はなく一時的なもの**」と思います。

**住民のみなさんへお願い「マス」の声をかけて**

住民の皆さんにお願いします。

事務局でも行いますが、知り合いのマスコミ（記者など）があったなら、取材をしてくれるように声をかけてください。この地域懇談会の様子を県民に知ってもらうことも重要ですし、このことは県教委にとってはプレッシャーになりますからよろしく願います。

なお、田島高校の「総合学科」についても問題にしなければならぬのですが時間がありません。田島のみなさん、ごめんなさい。

**みんなで参加して「存続」を訴えましょう！**